

2016年(H28年)

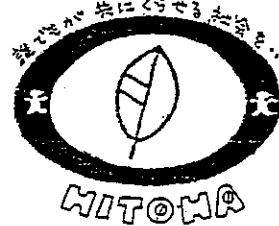
2月

No. 293

ひとはつうしん

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com>

(メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

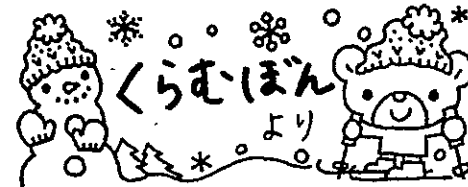
広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

- 暖冬と思いきや、降雪と低温にフルフルです。向原も水道管
- の破裂など、雪わぬ天災に「びっくりほん」です。雪かきに汗も
- かきましたか、皆さんはいかがだったでしょうか。

- 私は、ちょっと辛い思いを引きずりながらの年越しでした。
- というのは、ひとはが始まる前に世話になっていたN学園高等養護部(高養)の卒業生の相談が2件舞い込んできて、実情を聞いてみると二人とも数百万円の借金を抱え込んでしまっているということでした。
- 実は二人とも、高養を卒業後就職し、会社でもその力を十分に認められ、私も誇りに思えるほどの人材でした。
- 以後30数年の年月が過ぎていますが、その中で何があったのでしょうか。
- 彼らに、その使い道を聞いてみるとパチンコ、競馬、そして飲み代です。
- 二人ともひとり暮らしですから、誰にも相談したり、あるいは引き留めてくれたりしてくれる身近な人はいなかったのかもしれない。ある意味では、会社に就職し、ひとり暮らしをしている人たちが陥る危険な沼とシブです。
- 私たちは「当たり前」に普通の生活を」と言います。その意味は身近に相談したり、「お互いさま」と声をかけてくれる人がいてくれるということも大切な要素としてあるのではないのでしょうか。
- 二人はこれからも、地域で生きていくでしょう。その時に気軽に声を掛け合う人が見つかることを切に願います。

(理事長 寺尾 文尚)



クリスマスに年末年始と、イベントの多い冬休み。くらむぼんでも、イベントにちなんだ活動をとり入れて、クリスマス気分、お正月気分を満喫しました。

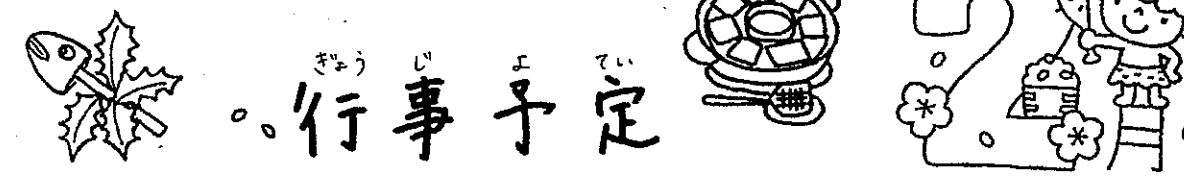
遊びの道具にも、年明けから凧と羽子板を追加してお正月仕様に。凧揚げではあまり遊べませんでしたが、羽根つきには子ども達がりまわり、自由遊びの時間になら、たら近くの広場まで行って遊んでいました。

木器用でははじめは板に羽根が全然当たらない子も、繰り返して遊ぶうち、打ち返すことができるようになりました。子ども同士で遊ぶと打ち合いにならなかったのが、最後にはラリーが続くほど上達しました。

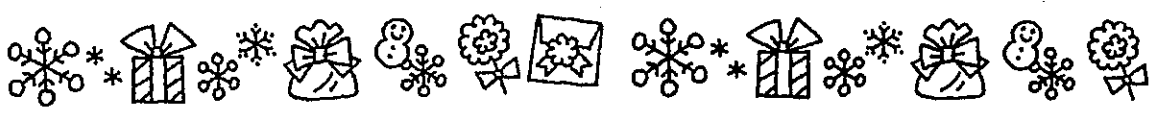
家庭では遊ぶ機会が少なくなった昔ながらの遊び。子ども達が集まる場所だからこそ、こういった遊びを通して、外に出て、カリと体を動かす機会を作っていきたいです。

(くらむぼん 白井 くみこ)

- 13(土) シロイハコ 販売(寸幕)
- オーダーメイドアロマ作り
- 24(水) トールペイント教室(寸幕)
- 28(日) ひとは館マルシェ



行事予定



ひととはの日記

私は昼食時間の食堂が好きです。話をしながら食べる、一人で黙々と食べる、中には鼻歌まじりに食べる人も。仕事では見ない「みんなのマイペース」が見られます。近くの人にお茶を注ぐ、通りにくいからと椅子をひくといった優しさやハプニングにも出会います。好きな物を先に食べる、あまり噛まないといった性格を垣間見たり、ご飯を残したりといった体調もうかがえます。先日私のコップに一口のお茶しか注いでくれない人がいました。その人曰く「トイレが近くなるから」とのこと。これも優しさ...です。色々発見しながら今日も食堂で美味しくいただきます。



(ひとほ館 井上美恵)

ひとほ館から食堂に異動になって早3年の月日が流れました。当初は料理のリエの字も分からなかった私でしたが、今では最初の頃と比べると少しはましになったと思います。

失敗もたくさんしました。煎餅の物を作るのに、しょうゆを入れてしまったり、コーンスープを作るのに火を止めてルウを入れたいといけないうちに止めずに入れてダメになってしまったり。そんな時には、いつも食堂のスタッフが助けてくれました。感謝しています。

これからもスタッフや仲間達に支えられて、おいしい料理を作っていきたいです。

(食堂部 松本寛子)

ひとほから吹いてくる風 ~ 30年によせて ~



私がまだフレッシュなヤングだった頃、まあ洗車いと銘打った、地域の方のマイカーや公用車の洗車の活動がありました。夕日には、1日8〜10台を洗車しましたが、仲間の中には、ワックスかけが得意な人、車内の掃除機掛けが得意な人、フロントガラスの水、コートを得意な人と、それぞれ持ち場を担っていました。夏は暑くて、冬は寒い。しかし、みんな「キレイにしてくれてありがとう」の言葉を励みに、今日も車を洗うのでした。

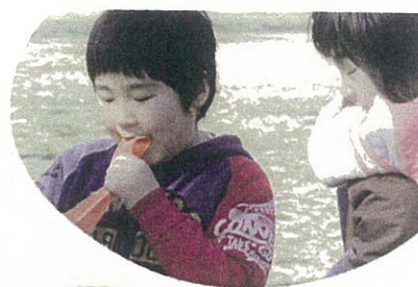
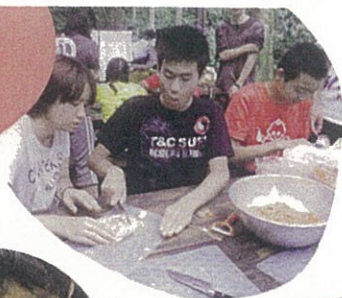
(くらむほん 佐竹正亮)

ささき亭で働くTさん。本来の性格は頑固で、今自分のやりたいことは何か何でもやらないと気が済まない気質の持ち主ですが、ささき亭で年数を重ねるごとに柔軟な対応ができるようになっていきました。11月のシロイハコさん来店時、お客様用の座布団を並べる仕事(朝のTさんの仕事)をしようとしたが、準備をされていたために思うようにできず、困っていました。「今は片側だけ並べてください」と声をかけたが、どうにかして全部並べていました(シロイハコさんにごめんねと言われる始末...). それが1月のシロイハコさん来店時、同じ状況になっていましたが、スタッフが何も言わずに、自分で状況を判断し、片側だけ座布団を並べることで済ませました。Tさんは人一倍気配り上手で、働き者。ささき亭にお越しの際は是非ともTさんの姿にもご注目ください。

さ
さ
き
亭
の
日
記



障がいのある子どもたちの
放課後活動が映画になりました！



響きあい
育ちあう
発達の芽

世界一 すてきな 僕たち私たちへ



ドキュメンタリー映画 94分
助成：文化芸術振興費補助金
文部科学省選定



「世界一すてきな僕たち私たちへ」
について



東京都立小児総合医療センター 顧問
日本発達障害ネットワーク 理事長
(社福) 正夢の会 理事長

市川宏伸

この映画を見てまず感じたことは、「ここに登場してくる子どもさんたちは無理矢理決められた路線にはめられていない」と言うことであった。多くの子どもさんたちは知的障害の存在する発達障害の方々であり、周囲に自分の意見を語ってくれることはないが、自分なりの考え方、プライドを持っている。彼らの考えを一方向的に否定したり、プライドを傷つけては、彼らの信頼感を失いお付き合いはうまくできない。仮に“パニック”を起こしたとしても、時間をかけて彼らとお付き合いすれば、次第にこちらの考えを理解してくれるようになる。直感的に、「自分を理解してくれる人か否か？」を判断できる彼らの試験を、支援者は毎日受けているような気がする。この映画に登場してくるこびあクラブの支援者は、時間をかけて彼らの考えを尊重しつつ課題に対応している。素晴らしい江東区の四季とともに、「その子らしく生きる」という理念が、この映画には展開されている。

※映画には日本語字幕がついています

『世界一すてきな僕たち私たちへ』上映会

入場無料

日時：2016年2月20日(土) 開場9:30 開映10:00

会場：甲田文化センターミュージズ 安芸高田市甲田町高田原1446-3 0826-45-4311

主催・お問い合わせ：社会福祉法人ひとは福祉会 0826-45-2565 (ひとはぼっこ)